



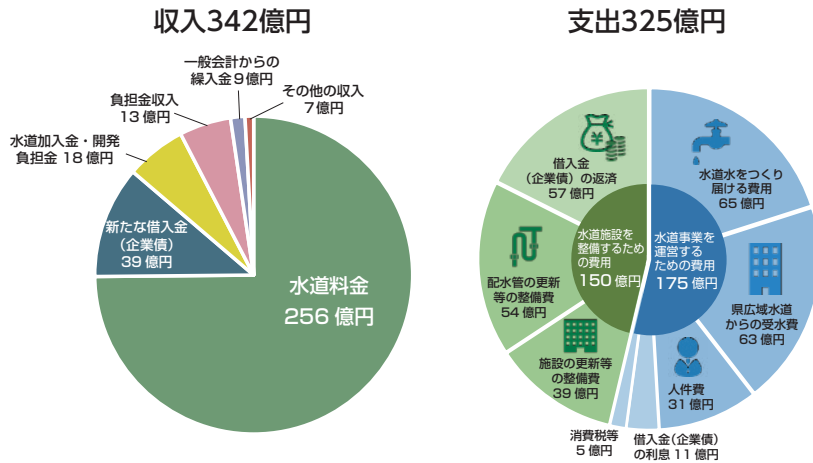
# 重点施策

# 水道料金等の在り方検討

仙台の水道は、大正12年の給水開始以来、安全で良質な水道水を提供することで、杜の都仙台を支えてきました。これから人口減少社会を迎える中、水需要減少に伴う水道料金収入の減少、施設の老朽化による更新事業費の増大等、仙台の水道を取り巻く経営環境はますます厳しくなっていきます。

仙台の水道を健全な状態で将来に引き継ぐために、適正な水道料金等の在り方を検討していきます。

## ◆水道料金の使い道



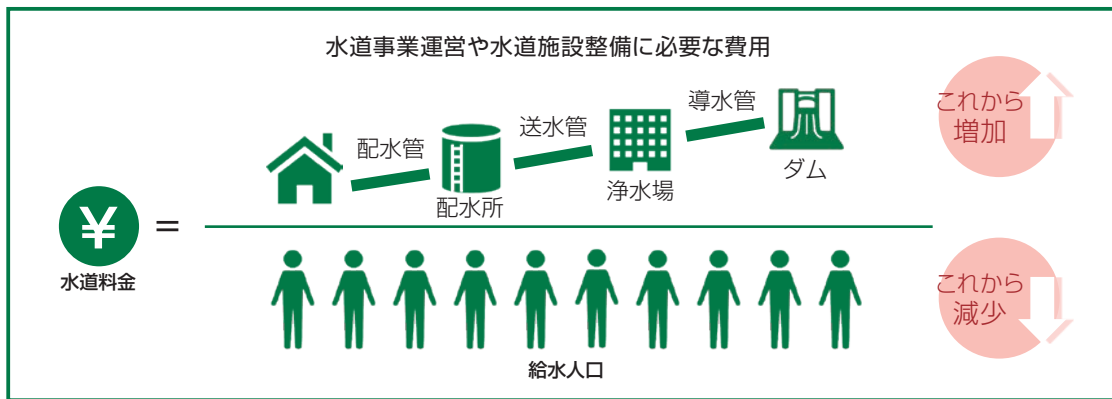
▶いただいた水道料金は、水道事業を運営するための費用と、水道施設を整備するための費用に充てています。

▶支出の約半分は、老朽化した管路・施設の更新や、施設整備のために借り入れたお金の返済にかかる費用です。

▶収入の7割以上は水道料金で支えられています。

※平成30年度決算の収益的収支と資本的収支を合わせたものです。差額の17億円は運営資金残高が増加していることとなります。  
 ※上記のグラフでは、長期前受金戻入や減価償却費等の現金を伴わない収入や支出を除いています。

## ◆水道料金の考え方



今後は、拡張期に集中的に整備してきた施設の更新時期が到来するため、**必要費用(分子)が増加**する一方で、人口減少社会の到来により**給水人口(分母)は減少**していく見込みです。

水需要減少に合わせたダウンサイジング等のコスト削減の取組を行ったうえで、**必要費用を水道料金で回収するために、料金水準の在り方を検討する必要があります。**

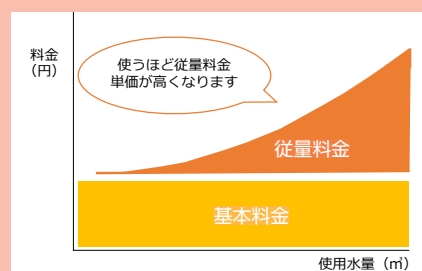
## ◆現在の料金体系の仕組み

$$\text{水道料金} = \text{基本料金} + \text{従量料金}$$

使用水量に関わらず、水道メーターの口径によって決まる定額料金です。口径が大きいほど一度に多くの水を使用できます。これに対応するためには、配水管を太くする等、施設整備費用がより多くかかるため、口径が大きくなるほど基本料金は高くなっています。



使用水量に応じてかかる料金で、単価×水量で計算します。現在は、使用水量が多くなるほど割高になる「逓増制料金体系」をとっています。



### 水道料金表（1ヶ月分）

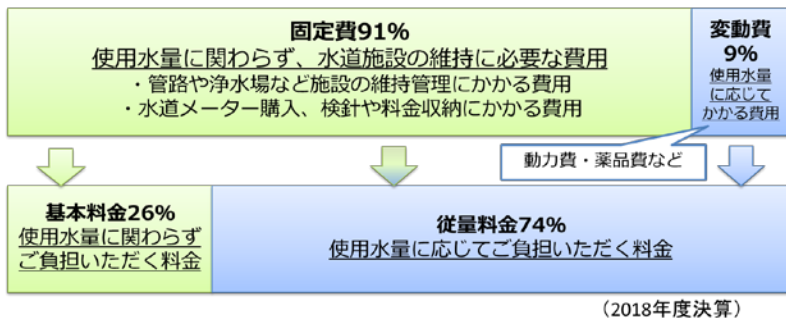
用途	口径	基本料金	従量料金					
			1～10m³	11～20m³	21～50m³	51～100m³	101～200m³	201m³以上
一般用	13mm	580円	80円	185円	205円	240円	275円	310円
	20mm	1,250円						
	25mm	1,900円						
	30mm	2,800円						
	40mm	5,300円						
	50mm	11,200円						
	75mm	24,600円	205円	205円				
	100mm	48,000円						
	150mm	130,000円						
200mm	260,000円							
公衆浴場用	一般用に同じ		125円					185円
共用栓	一般用に同じ		80円					

※上の表は消費税を含みません。水道料金は、基本料金と従量料金の合計額に、消費税（10%）を加算した金額となります。

※水道料金表及び消費税率は、令和元年度末時点のものです。

## ◆現在の料金体系の課題

### 課題1 固定費の基本料金・従量料金への配分割合

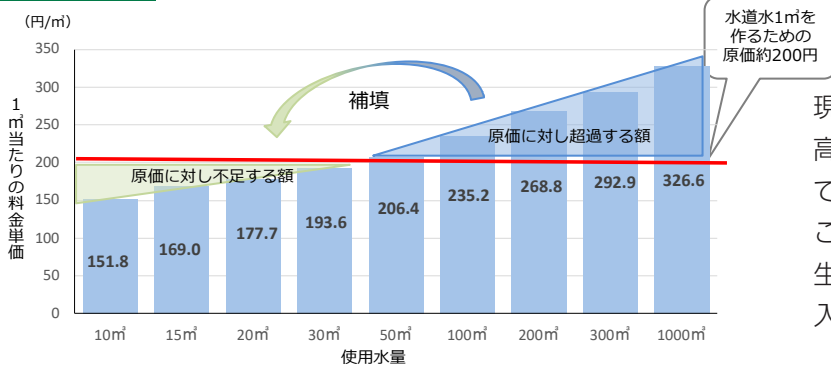


水道事業は、施設の維持管理や更新等の固定費の割合が高い事業です。

固定費は基本料金で回収することが理想ですが、現在は基本料金を安く抑えるために、固定費の多くを従量料金で回収しています。

- ・少量使用者へ配慮した配分割合となっています。
- ・水需要の減少が進むと、必要な費用が回収できなくなるおそれがあります。

### 課題2 逓増制料金体系



(水道メーター口径13mmで1ヶ月使用した場合：令和元年度末現在)

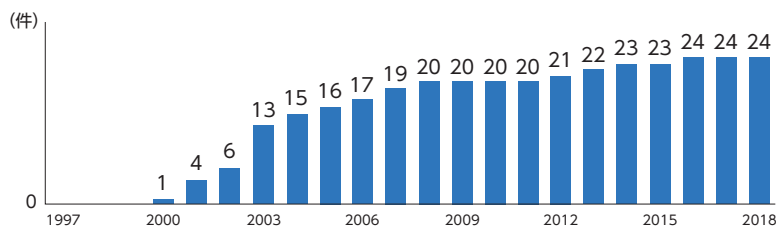
現在は、使用量が多くなるほど割高になる「逓増制料金体系」をとっています。

これは拡張期に、水需要の抑制や、生活水の低廉化を目的として導入したものです。

- ・使用量が多くなるほど単位あたりの料金が高くなるため、使用量が抑制されます。
- ・大口使用者の地下水等への切替えの要因となり、水道料金収入の減少につながっています。

### 課題3 大口使用者における地下水等併用事例の発生

地下水利用専用水道への転換件数（1997年度以降の累積）



大口使用者がコスト削減のために地下水等をメインで使用し、水道をバックアップとして使用する事例が見られています。

- ・主に基本料金のみのお支払いとなるため、現在の料金体系では、施設整備等にかかる固定費を十分に回収することができません。

## ◆今後の検討の方向性

### 料金水準の検討

#### 支出面での取組

アセットマネジメント手法による更新事業費の縮減や平準化、水需要減少に合わせた施設規模の適正化や統廃合、官民連携手法や新技術の活用等による業務効率化等、様々な経営効率化の取組により、**更なるコスト縮減**を図ります。

#### 収入面での取組

長期水需要予測に基づく水道料金収入の見直しを作成するとともに、将来世代に過度な負担を残さない公平な企業債の在り方について考え方を整理します。

#### 長期財政収支の見直し

健全な事業運営の持続のために、必要となる水道料金収入について検討します。

### 料金体系等の検討

#### ◆固定費の基本料金・従量料金への配分割合 ◆逡増制料金体系

・現在の料金体系について、大口使用者の負担が大きく、地下水等への切替えによる水道料金収入の減少につながっていることを踏まえ、生活水の低廉化と大口使用者の需要喚起のバランスに配慮した適正な料金体系の在り方を検討します。

#### ◆大口使用者の地下水等併用への対応検討

・大口使用者における地下水等併用について、実態調査や要因分析を行うとともに、他都市の先進事例を参考としながら、料金体系と併せて、対応策の検討を行います。

#### ◆その他収入に関する検討

・高度経済成長期に導入した水道加入金・開発負担金について、今後の事業環境に合わせた適正な在り方を検討していきます。

将来世代に健全な状態で仙台の水道を引き継ぐために、持続可能な事業運営と、適正な水道料金等の在り方について、**有識者やお客さま**とともに議論を進めていきます。

